

証券コード 3201

平成25年11月期 第2四半期  
(平成24年12月1日～平成25年5月31日)  
**ニッケグループ決算説明資料**

連結業績は、売上高48,180百万円、営業利益2,434百万円、  
経常利益2,684百万円、四半期純利益1,639百万円となりました。



“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、  
わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます”

<http://www.nikke.co.jp>

人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指す



1



## 目次-Contents-

1. ニッケグループの経営理念・経営方針
2. 連結業績の概要について
3. セグメント別業績の概要について
4. ～7. 各セグメント別概況
8. 連結B/S、C/F
9. 連結有利子負債の推移
10. 設備投資・減価償却費の推移
11. 連結業績予想
12. セグメント別業績予想
13. NN120ビジョンの達成に向けて
14. 6事業部制から4事業部制への転換
15. 上期トピックス
16. 株主還元方針
17. 過去20年の配当額の推移
18. ニッケの魅力と強みについて

人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指す



2

## 1. ニッケグループの経営理念・経営方針

- 経営理念** “人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”
- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
  - 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

- 経営方針**
- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
  - 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
  - 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
  - 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
  - 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

- 起業の原点であるウールの持つ「やさしく、あったかい」をニッケグループの企業イメージとして捉え、人々にものと心の豊かさを提供し、地球環境と調和することを経営理念と致します。
- 「繊維」「非繊維」の意識を撤廃し、ニッケグループを共通の経営理念・経営方針で統一された事業複合体と考え、さまざまな分野でお客様に満足頂ける商品やサービスを提供して参ります。
- 経営理念に裏打ちされた事業の成長を通じて、企業価値を持続的に高めて参ります。このために、グループ社員の一人ひとりが主役となって、情熱と誇りを持ち、夢を実現できる企業風土を具現化して行きます。

人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指す  3

## 2. 連結業績の概要について

第2四半期業績は、全体では前年同期比 減収減益。

|             | 売上高           | 営業利益         | 経常利益         | 純利益          |
|-------------|---------------|--------------|--------------|--------------|
| H24第2四半期    | 百万円<br>49,270 | 百万円<br>2,629 | 百万円<br>2,765 | 百万円<br>1,859 |
| H25第2四半期    | 百万円<br>48,180 | 百万円<br>2,434 | 百万円<br>2,684 | 百万円<br>1,639 |
| 売上高利益率      | —             | 5.1%         | 5.6%         | —            |
| 前年同期比       | -2.2%         | -7.4%        | -2.9%        | -11.8%       |
| 通期予想        | 百万円<br>98,500 | 百万円<br>5,500 | 百万円<br>5,500 | 百万円<br>3,000 |
| 通期予想に対する進捗率 | 48.9%         | 44.3%        | 48.8%        | 54.6%        |

人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループを目指す  4

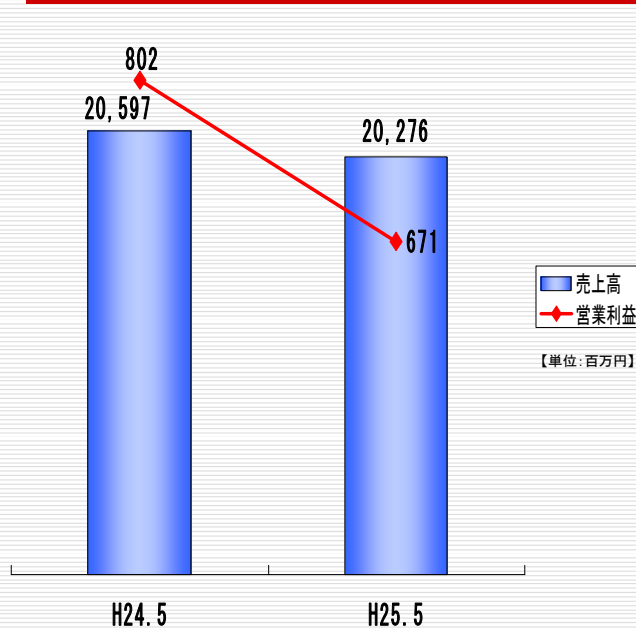
### 3. セグメント別業績の概要について

業績はセグメント別に好不同。人とみらい開発事業は増収増益。

|         | セグメント別売上高    |        |        | セグメント別営業利益    |        |        |
|---------|--------------|--------|--------|---------------|--------|--------|
|         | 売上高<br>(百万円) | 前年同期比  | 計画達成進捗 | 営業利益<br>(百万円) | 前年同期比  | 計画達成進捗 |
| 衣料繊維    | 20,276       | -1.6%  | 47.2%  | 671           | -16.3% | 33.6%  |
| 産業機材    | 8,682        | -21.0% | 44.6%  | 62            | -83.0% | 10.3%  |
| 人とみらい開発 | 7,733        | 8.3%   | 44.1%  | 1,988         | 10.5%  | 57.1%  |
| コンシューマー | 11,488       | 9.0%   | 59.3%  | 430           | -4.7%  | 78.2%  |

当期より従来の6つの事業区分から4事業に統合再編。  
 売上高は、人とみらい開発事業およびコンシューマー事業は増収。産業機材事業では産業向け機械の受注減や電源・計測器事業の事業譲渡等が影響して減収に。  
 営業利益は、人とみらい開発事業が増益。衣料繊維事業では円安の影響に起因した原価上昇、産業機材事業では産業用資材の収益悪化や産業向け機械の売上げ減少の影響等により減益に。

### 4. 衣料繊維事業の概況について

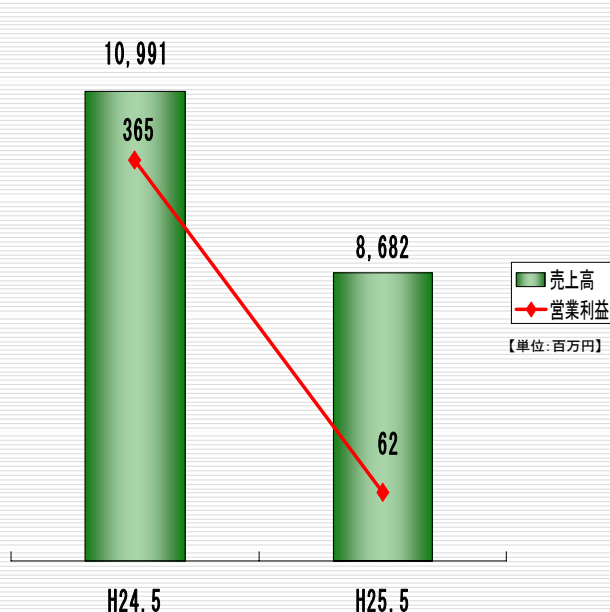


#### 概況ダイジェスト

- 【売上げ】
- ◆売糸は、急激な円安による大幅なコストアップのため価格改定を実施したが減収。
  - ◆学校向け制服素材は、入学商戦向けの出荷が好調であったことに加え、夏物用の原反も例年より早く出荷されたことにより増収。
  - ◆官公庁向け制服素材は、難燃作業服分野での新規受注など好材料はあるものの、予算削減という厳しい環境が影響して減収。
  - ◆一般企業向け制服素材は、大手通信会社向けの出荷があったが交通関係会社向けの販売が減少したことにより微減収。
  - ◆一般衣料向け素材は、大手郊外店向けの前倒し出荷があったが百貨店アパレル向けの春夏用生地を受注が減少して減収。
  - ◆海外向け事業は、高品質レディース素材の拡販に努めるも不透明な欧米景況感の影響を受けて減収。

【利益】  
 急激な円安進行における原料価格の高止まりや過年度在庫の評価損により減益。

## 5. 産業機材事業の概況について



### 概況ダイジェスト

#### 【売上げ】

◆産業用資材は、第1四半期で苦戦した自動車向け資材が前期並みに回復したものの、その他家電向け資材など大半の部門は前期を下回る状況となり、産業用資材全体では減収

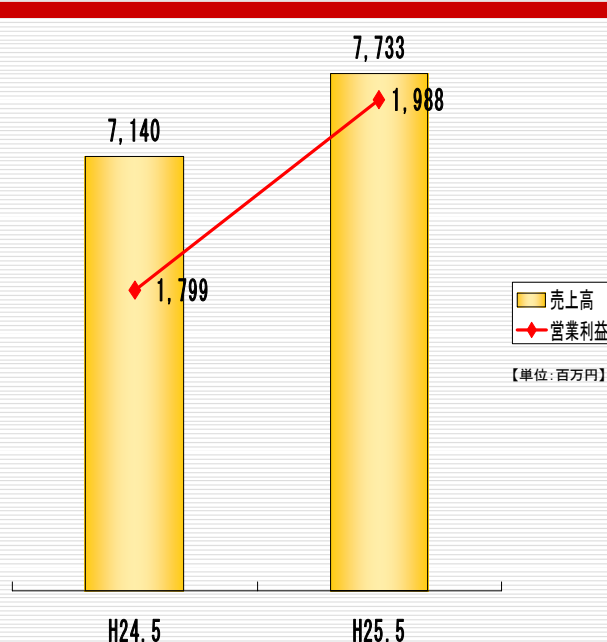
◆生活用資材は、ラケットスポーツ用品は海外などからの受注が増え微増収となったが釣糸の売上は需要が盛り上がり減収となり、生活用資材全体では減収

◆産業向け機械・計測器は、今期に入り車載品製造ライン関連の受注は回復してきたが、前期後半の受注減が影響し、減収

#### 【利益】

産業資材部門における収益悪化や、産業向け機械の受注減の影響で大幅な減益。

## 6. 人とみらい開発事業の概況について



### 概況ダイジェスト

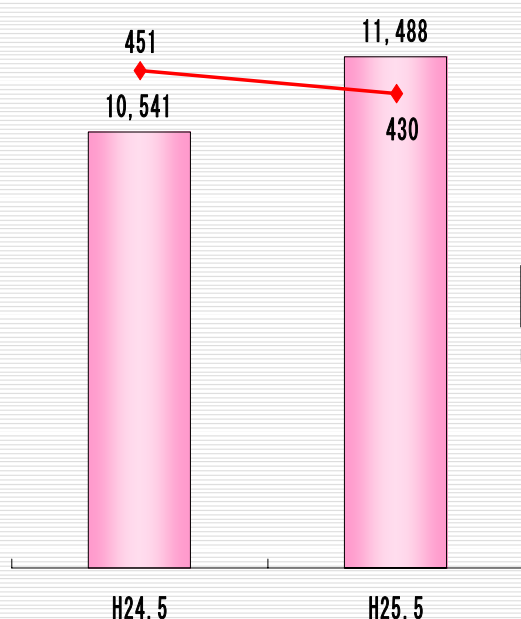
#### 【売上げ】

◆商業施設運営事業は、「ニッケコルトンプラザ」では、併設シネマの客足が落ちたことの影響や、気温差の激しい日が続いたことで春物衣料の販売に影響が出たものの、商業施設運営業務の新規受託により、微増収。一方、「ニッケパークタウン」では、春物衣料の苦戦と近隣SC(ショッピングセンター)の新規オープンの影響が重なったことにより、微減収。◆不動産事業は、愛知県弥富地区および稲沢地区で新規土地賃貸が始まり増収。また、3月下旬には愛知県一宮地区において事業化に取り組んできたソーラー発電事業を開始。◆スポーツ事業は、テニススクールでは前期並みとなったが、ゴルフ(練習場・コース)でメガソーラー発電所建設のために土山ゴルフコース(兵庫県明石市)を閉鎖したことにより減収。◆介護事業は、既存デイサービスの利用者増と施設の新規開業が寄与したことにより、増収となりました◆アミューズメント事業は、飲食部門で売上を伸ばしたが、カラオケ部門の不振を補えず減収。

#### 【利益】

不動産事業における新規賃貸の貢献や商業施設における修繕費用の減により増益。

## 7. コンシューマー事業の概況について



### 概況ダイジェスト

#### 【売上げ】

- ◆寝装事業は、災害用備蓄毛布の販売が堅調に推移するも需要としては一巡した状況にあり減収。
- ◆貿易代行事業は、コンテナの輸入設置事業が好調であり大幅な増収。
- ◆100円ショップ向け卸売事業は、既存商品の落込みを新商品の開発と新規取引先の開拓により補い微増収。
- ◆携帯電話販売事業は、スマートフォン市場の拡大と、前期に行った新規出店・移転増床に伴う販売台数の増加が全期間で売上げに寄与し増収。
- ◆キッズランド事業は、既存3施設が集客を伸ばしたことにより増収。
- ◆ビデオレンタル事業は、一昨年12月に新たに加わった7店舗が、全期間で売上げに寄与したことにより増収。

#### 【利益】

災害用備蓄毛布が減少した寝装事業と、携帯電話販売事業にて減益。

## 8. 連結B/S 連結C/F (単位：百万円)

単位：百万円

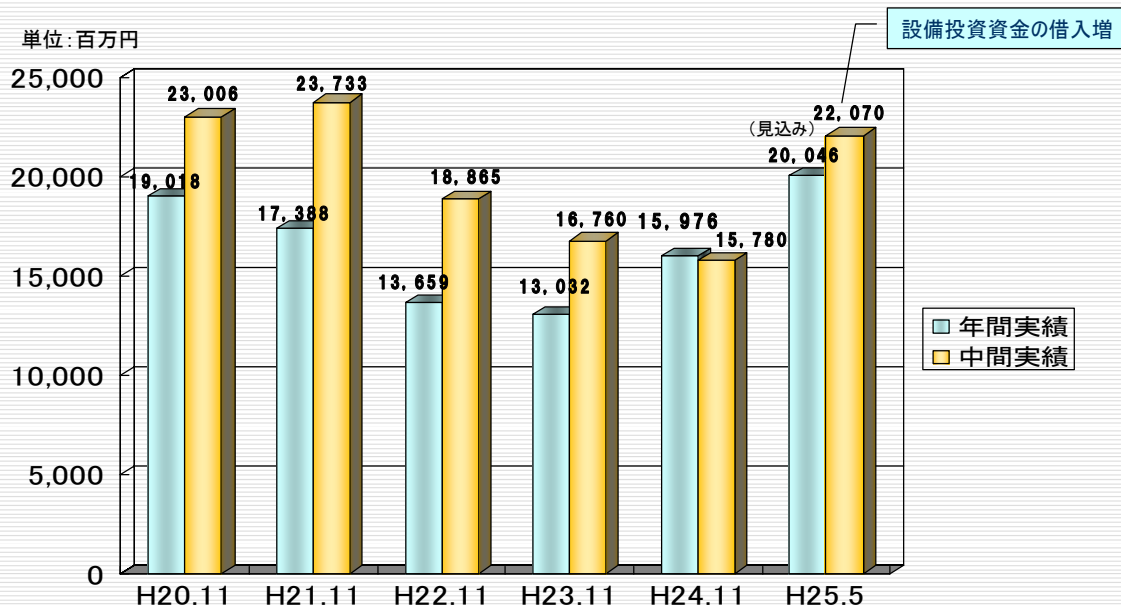
|                 | H24. 11        | H25. 5         |
|-----------------|----------------|----------------|
| <b>資産合計</b>     | <b>117,792</b> | <b>131,474</b> |
| 流動資産            | 65,215         | 68,845         |
| 固定資産            | 52,577         | 62,628         |
| 有形固定資産          | 33,973         | 35,688         |
| 無形固定資産          | 661            | 651            |
| 投資その他の資産        | 17,942         | 26,288         |
| <b>負債合計</b>     | <b>47,746</b>  | <b>55,606</b>  |
| 流動負債            | 30,126         | 34,163         |
| 固定負債            | 17,619         | 21,443         |
| <b>純資産合計</b>    | <b>70,046</b>  | <b>75,868</b>  |
| 株主資本            | 68,867         | 69,724         |
| 資本金             | 6,465          | 6,465          |
| 資本剰余金           | 4,543          | 4,543          |
| 利益剰余金           | 65,432         | 66,301         |
| 自己株式            | ▲7,574         | ▲7,586         |
| その他包括利益累計額      | 343            | 5,284          |
| 少数株主持分          | 835            | 859            |
| <b>負債・純資産合計</b> | <b>117,792</b> | <b>131,474</b> |

単位：百万円

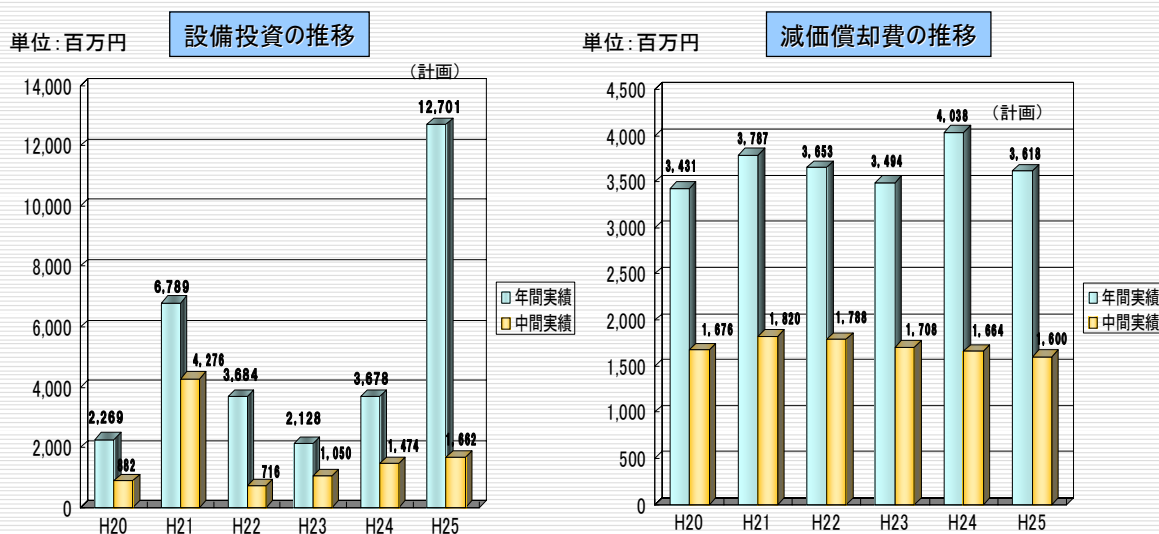
| 連結キャッシュフロー計算書(要旨)  | H24. 5 | H25. 5 | 増減     |
|--------------------|--------|--------|--------|
| 営業活動によるキャッシュフロー    | 2,050  | 3,415  | 1,365  |
| 投資活動によるキャッシュフロー    | -4,449 | -5,807 | -1,358 |
| 財務活動によるキャッシュフロー    | 2,205  | 4,862  | 2,657  |
| トータルキャッシュフロー       | -194   | 2,470  | 2,664  |
| 現金及び現金同等物の<br>換算差額 | -1     | 93     | 94     |
| 現金及び現金同等物の<br>期末残高 | 10,101 | 16,191 | 6,090  |

- 営業活動によるキャッシュフロー  
売上債権等の減少により収入増加
- 投資活動によるキャッシュフロー  
固定資産および投資有価証券の取得等により支出増加
- 財務活動によるキャッシュフロー  
長短借入金増加により収入増加

## 9 連結有利子負債の推移



## 10.設備投資・減価償却費の推移



当第2四半期の有形固定資産への投資実績は、主にグループ会社新工場、介護施設、繊維、産業機材機械等。  
 今期の設備投資計画は127億円(衣料繊維21.8億円、産業機材10.8億円、人とみらい91.6億円、コンシューマー2.6億円)。

## 11.連結業績予想

連結業績予想は前回予想を据え置き。

|       | 2012.11期<br>実績<br>(単位：百万円) | 2013.11期<br>予想<br>(単位：百万円) | 増減<br>(単位：百万円) |
|-------|----------------------------|----------------------------|----------------|
| 売上高   | 97,357                     | 98,500                     | +1,143         |
| 営業利益  | 5,337                      | 5,500                      | +163           |
| 経常利益  | 5,401                      | 5,500                      | +99            |
| 当期純利益 | 3,261                      | 3,000                      | ▲261           |

事業部門ごとに当初の見込みに対し増減はあるが、連結業績予想は据え置きとする。  
 売上高では、衣料繊維事業は当初予想通り増収の見通し。産業機材事業は上期減収のため通期でも下振れの見通し。人とみらい開発事業は下振れするも増収、コンシューマー事業は上振れするも前年撤退のペットフード事業の影響で減収の見通し。  
 利益面では、衣料繊維事業は昨年来の大幅な円安という為替変動による原料高の影響で当初予想に比べ下振れを見込むも前期比微増益の見通し。産業機材事業は通期下振れも下期は自動車関連の回復を見込む。人とみらい開発事業とコンシューマー事業は各々上振れの見込み。各事業部門では一層のコストリダクションを実施し、利益確保や上積みを図る。

## 12.セグメント別業績予想

(百万円)

注)上記売上上げにはセグメント間の売上上げを含みます。

| セグメント     | H24年実績 |        | H25年予想 |        |
|-----------|--------|--------|--------|--------|
|           | 売上高    | 営業利益   | 売上高    | 営業利益   |
| 衣料繊維事業    | 42,266 | 1,680  | 43,000 | 1,700  |
| 産業機材事業    | 20,471 | 652    | 18,000 | 400    |
| 人とみらい開発事業 | 15,426 | 3,865  | 17,000 | 3,840  |
| コンシューマー事業 | 21,331 | 604    | 21,200 | 740    |
| 消却または全社   | △2,139 | △1,465 | △700   | △1,180 |
| 計         | 97,353 | 5,337  | 98,500 | 5,500  |

衣料繊維事業では、すべての部門における徹底したコストリダクションを促進するとともに、梳毛生産体制の再構築の実施、売糸事業の統合、海外営業のさらなる拡販を図る。

産業機材事業は、自動車関連資材・装置の受注回復とコストリダクションの取組みにより、下期での営業利益の回復を期するとともに、海外オペレーションの一層の拡大、販社統合による営業力強化など事業構造の改善を進める。

人とみらい開発事業およびコンシューマー事業では、コストリダクションを徹底するとともに、スタートした太陽光発電事業や介護事業、スタンプホビークラフト事業を軌道に乗せることを目指す。

## 13. NN120ビジョンの達成に向けて

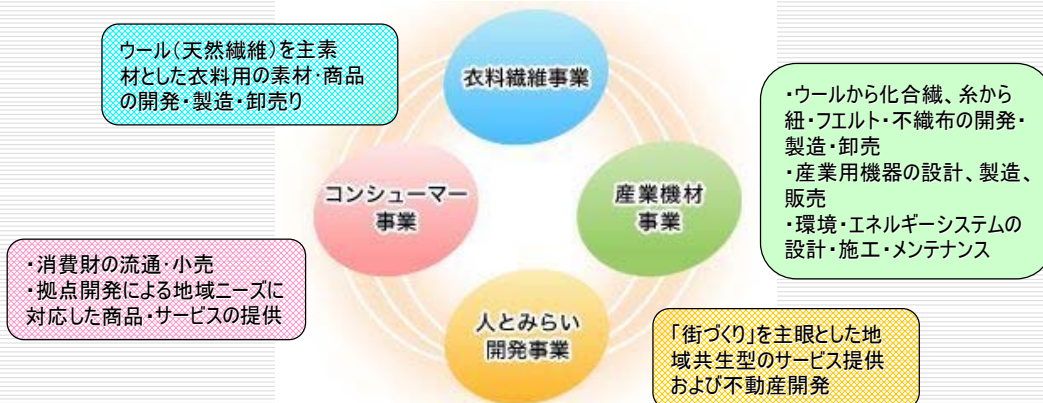
### 事業運営体制をシナジー発揮や事業展開をより加速しやすい組織へと一部見直し、より収益性に重点を置き、持続的な成長・発展を目指す

- ◆ 創立120周年(2016年度)の節目に向けた羅針盤である2009年度よりスタートした「**ニッケグループ中長期ビジョン(NN120ビジョン)**」に基づき、ニッケグループの目指す方向性のあるべき企業像を明確化し、6つの事業分野で不断の改革と新規事業の開拓に挑戦し、成長発展を目指した。
  - 結果「**NN120第1次中期経営計画(2009~2011年)**」最終年度の2011年度には、リーマンショックにより落ち込んだ業績を、連結売上高876億円、連結営業利益50億円まで回復。
  - 前中期計画の実績を検証し次期中計の足掛かりとする期間と位置付けた2012年度は、連結売上高973億円、連結営業利益53億円となった。
- ◆ 一方、ニッケグループを取り巻く経営環境は変化のスピードを速め、不確実性がますます増大。
  - 第1次中期経営計画3ヵ年の実績を検証し「**NN120第2次中期経営計画(2013~2015年)**」を策定。新体制のもと、顧客価値の向上・創造やグループ総合力の一段の強化を図り、2015年度において**連結売上高1,000億円以上、連結営業利益70億円以上**を目指す。

“開発提案元年”と位置づける今期。下期も引き続き4事業それぞれで新しい価値を創出し、「NN120ビジョン」の実現への道筋づくりを積極的に進めていく。

## 14. 6事業部制から4事業部制への転換

「NN120第2次中期経営計画」をスタートさせるにあたり、経営の機動性・効率性を高め、グループ総合力の更なる向上を図るため、従来の6事業部制からシナジーをより発揮しやすい4事業部制へと事業運営体制を見直すこととしました。



**ニッケグループは経営理念・経営方針で統一された事業複合体と考え、さまざまな分野でお客様に満足頂ける商品やサービスを提供して参ります。**



## 【ご参考】主要なグループ会社について

### ●衣料繊維事業

(株)ナカヒロ(大阪市中央区)、アカツキ商事(株)(東京都墨田区)、佐藤産業(株)(東京都千代田区)、南海毛糸紡績(株)(大阪市中央区)大成毛織(株)(愛知県一宮市)、(株)中日毛織(愛知県一宮市)、尾州ウール(株)(愛知県一宮市)、艶金化学繊維(株)(岐阜県大垣市)  
青島日毛織物有限公司(中国山東省)、江陰日毛紡績有限公司(中国江蘇省)  
南海ニッケ・マレーシア、南海ニッケ・トレンガヌ 他

### ●産業機材事業

アンビック(株)(兵庫県姫路市)、(株)ゴーセン(大阪市中央区)、(株)ニッケ機械製作所(兵庫県加古川市)

### ●人とみらい開発事業

ニッケ不動産(株)(神戸市中央区)、(株)ニッケ・ケアサービス(愛知県一宮市)、(株)ニッケインドアテニス(愛知県あま市)、(株)ニッケレジャーサービス(愛知県弥富市)、(株)ニッケ・アミューズメント(神戸市中央区)

### ●コンシューマー事業

ニッケ商事(株)(大阪市中央区)、双洋貿易(神戸市東灘区)、(株)ニッケ物流(愛知県一宮市)、(株)友栄(大阪府枚方市)、ニッケアウデオSAD(株)(兵庫県芦屋市)、(株)ジーシーシー(大阪市中央区)、(株)ツキネコ(東京都荒川区)、(株)ニットファミリー(神戸市中央区)

## 15.上期トピックス①

### ●衣料繊維事業におけるグローバル戦略推進

- ◆国内外の製造販売拠点を再編し、梳毛工程について前期にM&Aを行ったマレーシアの子会社との連携強化を図り更なる高品質化・最適化を進めます。また売糸事業を統合し、事業の効率化と海外市場の販路開拓を進めます。
- ◆海外営業部の拠点を上海に移転させるとともに、ミラノオフィスとの連携を強化し、上海・ミラノを基点として欧州・北米・アジア向けの販売拡大に取り組みました。今後は顧客の意向をより反映させた商品の提案により海外販売の拡大が期待できます。

### ●芦森工業株式会社の筆頭株主に

当社は芦森工業株式会社(東証1部)の株式を取得しました(所有割合17.41%)。同社は繊維を用いた産業用資材の分野で優れた技術と開発力により確固たる営業基盤を築いております。当社グループは産業用機材事業における裾野が広い自動車用資材への営業基盤拡大を最重要課題として取り組んでおり、両社の技術や開発力、営業網、人材等を活用することによりシナジー効果を最大限に発揮することがグループ全体の成長に繋がると考えます。

## 15.上期トピックス②

### ●ソーラー売電事業続々スタート

現在、土山ゴルフコース跡のメガソーラー事業計画（出力約16MW）、印南工場内の新設倉庫等の屋上（出力約1MW）、また一宮事業所内の大成毛織新工場屋上（出力約440kW）、稲沢陸田土地（出力約300kW）、さらには市川コルトンプラザ屋上（出力約690kW）等でソーラー事業計画を進めており、いずれも今年度から来年度にかけて売電を開始する予定です。当社の重要施策の一つとして捉えるソーラー売電事業については今後も各所で展開する予定であり、ブランド発信及び生産性向上に寄与するものと考えています。

### ●ツキネコグループの株式取得

コンシューマー事業において、株式会社ツキネコ、株式会社ツキネコファクトリー及び有限会社ティーティーシーの株式を取得し子会社化しました。ツキネコグループは、ホビークラフトをはじめとする各種スタンプインク、スタンプパッド、スタンプ関連商品の研究・開発・製品化及び卸売りに至るまでの一貫した製造技術を有しており毛糸製造やフェルト製造部門を持つ当社にとって今後拡大が見込まれるホビークラフト事業への多様化が期待できます。

## 【ご参考】メガソーラー施工実績



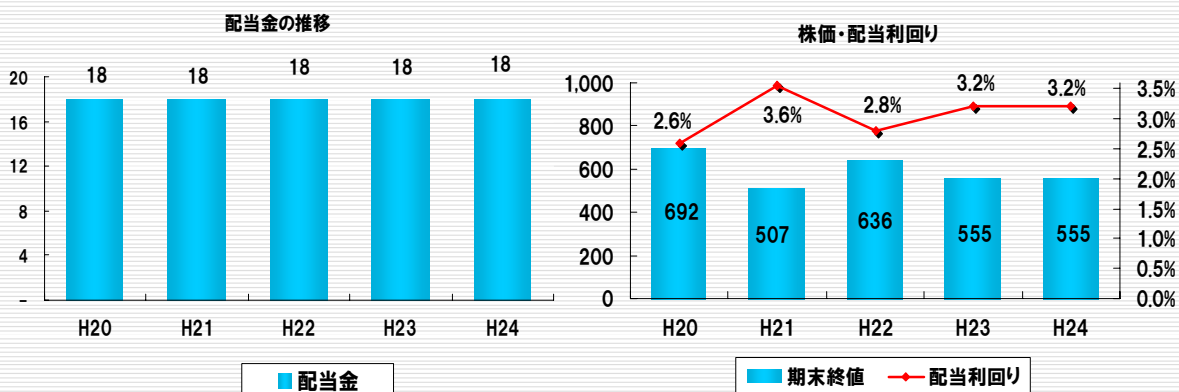
メガソーラー施工実績  
 左上：創作工房  
 左下：大成毛織新工場  
 右上：ニッケあすも一宮  
 右下：土山メガソーラー



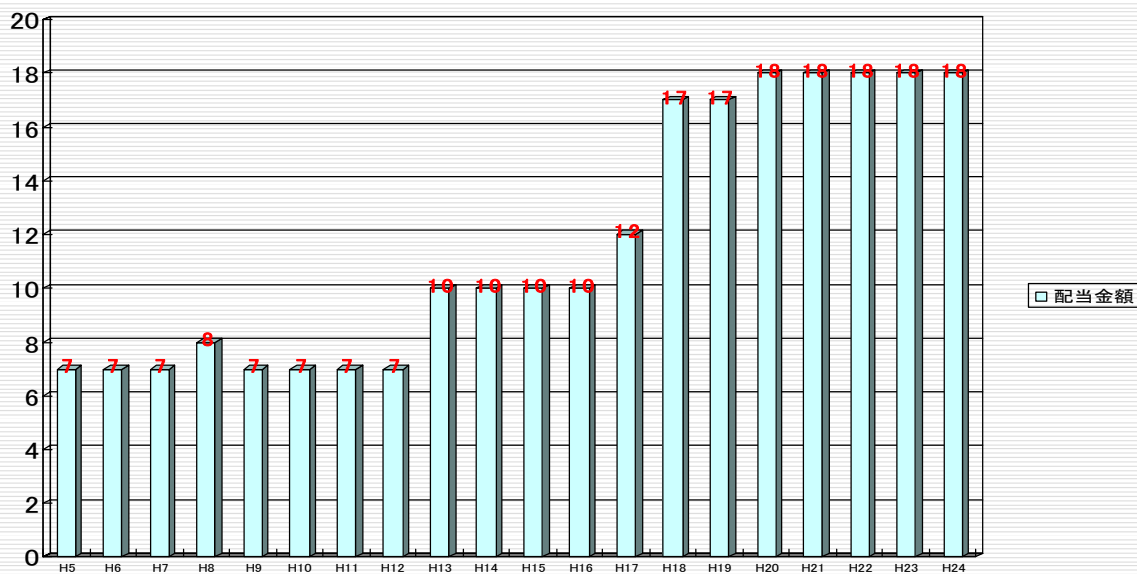
## 16.株主還元方針

利益水準に応じて持続的に配当水準を引き上げ

今期も引き続き年間1株当たり18円を目標



## 17.過去20年の配当額の推移



※平成8年は100周年記念配当により増配したもの

## 18. ニッケグループの魅力と強みについて

### ●安定した収益基盤

創業以来110年を超える中で培われたNIKKOブランドに裏打ちされた信頼性の高い衣料繊維事業、そして、保有地等を最大限に活用する不動産開発などによる安定した収益基盤を有しております。

### ●多角的な事業展開

長年の実績のある衣料繊維分野にとどまらず、ゴーイング・コンサーン(継続企業体)の観点に立ち、収益性の高い分野に対して積極的に切り込んでいくことで、既存事業における不断の改革と同時に、新規事業の開拓に引き続き挑戦していきます。4事業いずれも等しく将来の成長ポテンシャルを秘めた事業として捉えています。

### ●盤石な財務体質

高い自己資本比率と豊富な保有資産により健全な財務体質を維持しております。

### ●安定配当

株主の皆様に対する利益配分を重要な課題の一つとして捉えており、過去20年にわたり一度の減配実績もなく配当を実施してまいりました。これからも引き続き株主の皆様のご期待に応えるため、配当政策を検討してまいります。



ニッケグループの **facebook** がスタートしました。

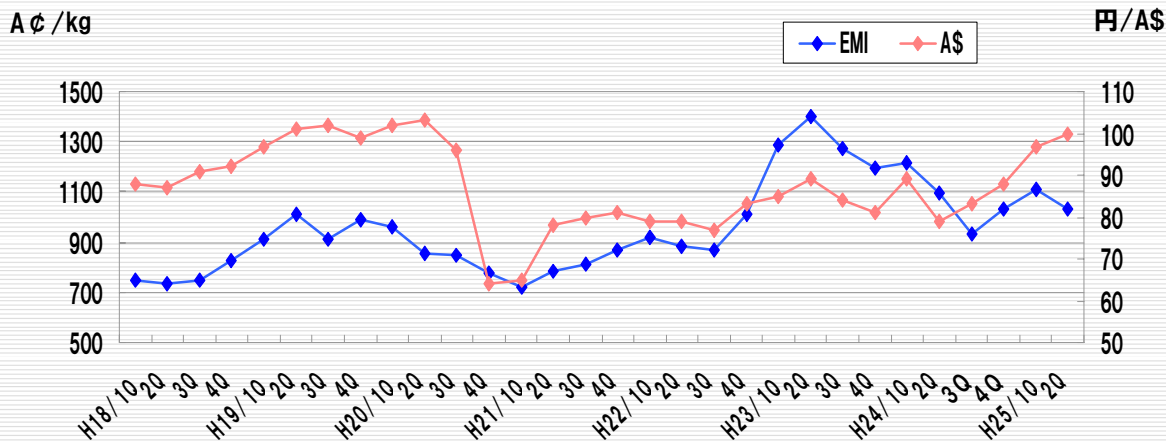
<http://www.facebook.com/nikke.group>



うーるん

●●●ニッケグループのさまざまな表情を発信していきます

(参考) 羊毛相場・為替相場の推移



「ウールのニッケ」から“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループ”へ



本資料中の業績予想、見通しおよび事業計画についての記述は、本決算発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、記載された将来の業績を保証するものではありません。



う~sun

IRに関するお問い合わせは・・・  
 ニッケ(日本毛織株式会社)  
 経営戦略センター法務IR広報室  
 TEL 06-6205-6601  
 IRページ <http://www.nikke.co.jp/ir/index.html>